

あの日から …3ヶ月…今、被災地は

「8000人なお不明」「身元不明のご遺体2000」「子ども8000人に線量計」

「予想以上に進まぬ瓦礫撤去作業」「被災地での過労死・自殺」

「震災孤児「あしなが募金」活動に」「仮設住宅への食糧支給終了」

上記は、3ヶ月が過ぎる中での状況と、新たな問題の浮上を示している新聞記事の見出しです。

現在、実行委員会の正副委員長は、他校の高校生たちに次のように訴えています。

<長文なので最後の部分だけを紹介します>

今、自分が出来ることを、ゆくり考えてみて下さい。そして行動に移して下さい。今、一番頑張らなくてはいけないのは、被災して何もかも失ってしまった人達です。でも、もしその人達が歩みを止めてしまった時、背中を押してあげられるのは被災していない私達だけです。震災で何もかも破壊されてしまった町を、元通りに直す手助けをするのも私達の役目です。その私達が大人になって、お父さん、お母さん、おじいちゃん、おばあちゃんになっても、この役目は終わりません。1人でも多くの被災された方々が、もう一度、夢と希望を持てるように自分に出来ることを考えていきましょう。初めは、心の中で応援するだけでも十分だと思います。その思いを力にして、いつか行動に移してみてください。支援活動はまだまだ初めばかりです。心を一つにして、みんなで困難へ立ち向かって行こう、その気持ちが一番大切です。

東日本被災地応援実行委員会 委員長

報告

みなさんが書いたメッセージ入りのノート200冊は、京都合唱祭に参加していた福島の高校生に届けました。

もし今、「自分も被災地のために何かしたい」と思っている人がいるのなら、どんなちっぽけなことでもいい、まずは自分から動いてみて下さい。そうすればきっとあなたの周りの人が自然と助けてくれることと思います。私が委員会のみんなとやり遂げたことは、大変ですがとても身近に始められることです。毎持ちさえあればあとは行動に移すだけで、強く想えば、一生懸命行動すれば、想いはきっと様々な人を通して被災地へと届くでしょう。そして、自分自身も大きく成長することができると思います。3月11日の震災はもう過ぎたものですが、被災地の被害や原発問題はまた過ぎたものではありません。私たちはこのことをこれからも忘れずに胸に留めておかねばなりません。次の世代へと時代をつなげていくのは私たちなのですから、これからも長い目で被災地を見守っていくことが大切だと私は思います。

東日本大震災応援実行委員会 副委員長

保護者のみなさまへ
募金のために作成したオリジナルタオルがまだいくらかございます。6月15日(水)の体育祭にて販売いたします。お買い上げ頂ければ嬉しいです。



3月11日東北地方太平洋沖地震が発生し、3月15日に警察庁と日本歯科医師会から「ご遺体の身元確認への出動要請」があり、約1ヶ月後の4月18日から24日まで約1週間、京都府歯科医師会から先発隊6名のメンバーの1人として宮城県に入りました。4月とはいえ当時東北はかなり寒く、余震もまだかなり続いている状況でした。ニュースや新聞で見たがれきを実際に目の当たりにしたとき、そのにおいや独特の雰囲気も相まって相当な衝撃を受けたものでした。

ところで、皆さんは「歯型（はがた）の鑑定」という言葉をお聞きになったことがあるでしょうか？たとえば白骨死体が見つかった時、歯を調べてその歯の治療痕（ちりょうこん）から個人を特定できる場合があります。死後、皮膚や筋肉がなくなっても、歯や骨は残るので生前の歯科のカルテと照合（照らし合わせる）することにより身元が確認できるのです。

それでは、一般に人の歯は何本あるかご存じでしょうか？子どもの歯（乳歯）は20本、大人の歯（永久歯）は28本あります。（親知らずまで入れると32本です）高校2年生では、たいていの方が28本の歯を持っています。仮に1本の歯を「虫歯がない」「治療済み」「抜けている」の3パターンに分けた場合、28本の歯を持つ方では3の28乗とおりの組み合わせがあることとなります（数学に強い方は計算してみてください）。実際には治療方法や治療材料も1通りではないため、個人を特定できるかなり有効な手がかりとなります。

さて、宮城県の沿岸部、被害の大きかった気仙沼、東松島、石巻（いしのまき）、女川（おながわ）に派遣された私たちは避難所から少し離れたところにある検案所（警察官、医師、歯科医師などがご遺体を調べる場所）で自衛隊などによって捜索され発見されたご遺体の口の中を見て歯の記録を作成し、生前の歯科カルテと照合する仕事をしてきました。肉体的にも精神的にもかなりつらい作業でしたが、歯科医師でないとできない仕事であるという誇りを持ってがんばってきました。実働5日間で検視90体、照合26件でした。そのようななか、何人かはご遺族の元に戻っていただくことができました。

以上、私たちの活動はその性格上、報道されにくいのでほとんど知られることはありませんが、このような被災地の支援活動もあるということの頭の片隅にとどめていただければ幸いです。

最後になりましたが、この度の震災で犠牲になられた方のご冥福をお祈りいたしますとともに、被災地の一刻も速い復興を祈念いたします。